

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と体制

(2009年8月18日現在)

1 分野別委員会名		数理科学委員会	
分野の活動方針	数学は古くからある長い歴史を持つ学問であるが、今日では数学を研究する動機は多様化し、研究対象も大きく広がっている。学術会議では統計数学、数理工学等を含む広い意味での数学を数理科学と総称している。数理科学委員会は数理科学に関して(1)科学政策・教育政策に対する提言、(2)社会への貢献、(3)国際社会との連携を主な目的として活動を行う。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	数学委員会は所属を希望する(連携)会員を受け入れ、数学全般にわたる議論の場として設定する。		
委員会委員	(委員:39名) 楠岡 成雄、柏原 正樹、石井 志保子、坪井 俊、赤平 昌文、飯高 茂、石井 仁司、今泉 忠、岩崎 克則、岡本 和夫、小澤 徹、小田 忠雄、河内 明夫、儀我 美一、小磯 深幸、小島 定吉、小谷 元子、小西 貞則、薩摩 順吉、清水 静海、竹村 彰通、谷口 正信、田端 正久、長井 英生、中尾 充宏、西田 吾郎、二宮 智子、深谷 賢治、藤井 齐亮、松本 幸夫、三井 斌友、宮岡 洋一、宮岡 礼子、宮本 雅彦、室田 一雄、森田 康夫、八杉 満利子、吉田 朋広、杉原 正顯		委員長:楠岡 成雄 副委員長:柏原 正樹 幹事:石井 志保子 幹事:坪井 俊
分科会の設置方針 ・基本的役割	数理科学はいくつかの分野に分かれるが、特に統計学は諸科学に関連するので、数理統計学分科会を設ける。また、数学に関して数学教育はきわめて重要であるので、学術的なことを審議する場として数学分科会を、数学教育に関して審議する場として数学教育分科会を設ける。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員	役員等
数学分科会	数学は、現代文明を成立させている諸科学の基礎となっている。多方面に及ぶ数学の諸分野の現状を把握し、多くの分野の総合的交流をはかり、今後の発展に必要な諸方策を検討する。 常設	(委員:28名) 楠岡 成雄、柏原 正樹、石井 志保子、岡本和夫、岩崎 克則、儀我 美一、吉田 朋広、宮岡 洋一、宮岡 礼子、宮本 雅彦、薩摩 順吉、三井 斌友、室田 一雄、小磯 深幸、小西 貞則、小谷 元子、小田 忠雄、小島 定吉、小澤 徹、松本 幸夫、深谷 賢治、杉原 正顯、石井 仁司、中尾 充宏、坪井 俊、田端 正久、八杉 満利子、谷口 正信	世話人:楠岡 成雄
数理統計学分科会	統計学は諸学にまたがる広い学問領域でありその社会的影響も大きい。このような統計学について日本学術会議の中で議論される場が必要であり、統計学全般をカバーする分野別委員会、または複数の分野別委員会にまたがる分科会の設置が切に望まれる。本分科会ではその準備を行う。 常設	(委員:19名) 竹村 彰通、吉田 朋広、小林 正人、赤平 昌文、今泉 忠、大屋 幸輔、狩野 裕、北川 源四郎、国友 直人、小西 貞則、清水 邦夫、高安 秀樹、谷口 正信、谷崎 久志、長井 英生、西山 慶彦、樋口 知之、森棟 公夫、美添 泰人	委員長:竹村 彰通 副委員長:吉田 朋広 幹事:小林 正人

<p>数学教育分科会</p>	<p>現代日本の教育は、少子化の進行、若者の学力低下と数学離れなどにより非常に大変な状況にある。本分科会では、数学教育を研究する立場と、数学を研究する立場の(連携)会員が、数学教育に関わる課題の解決に向けて活動する。</p>	<p>(委員:13名) 森田康夫、藤井齊亮、 二宮智子、飯高茂、 河内明夫、宮本雅彦、 清水静海、今泉忠、 竹村彰通、重松敬一、 中原忠男、長崎榮三、 狩野裕</p>	<p>委員長:森田 康夫 副委員長:藤井 齊亮 幹事:二宮 智子</p>
<p>今後の分科会設置方針等</p>			
<p>当面予定している具体的活動</p>			